

サイアクがサイコウにかわる

大新小学校 三年

重<sup>しげ</sup> 恵<sup>えり</sup>梨<sup>り</sup>香<sup>か</sup>

サイアクだと思っ  
ていた友だちとも、サイ  
コウにながよくなるこ  
とができる。

私がこの本をえらんだのは、五年生から始  
まる委員会活動で放送委員になりたいと思っ  
ていたからだ。え顔で放送している本の表紙  
の絵を見て、かっこいいと思った。

この本は、おしやれな放送をしようとおこ

2

がれの放送委員になれたかえでが、おぼかな  
放送をすうこうへいとペアになつて、サイア  
クな気もちで始まる。タイプがせんせんちが  
う二人が、さい後にはながよくお昼の放送を  
していくお話だ。

読んでいて、私は何回もかえでと同じ気も  
ちになつた。たとえば、いきなりクイズの問  
題を読めと言われたとき、びっくりするくら  
いむねがどきんどきんしたかえで。とうぜん  
だよね。たくんさん練習してかんぺきな放送に

したかったんだものね。

何てこうへいは自分か、てなんだろう。サイアク、て思、ちゃ、た。みんなの前でし、ぽいなんていわだから。

そういえば、私にも自分の考えがいいに決ま、ていると思、う時がある。そんな時は、相手のことをサイアクだと思、てしま、う。私はそうなるとなかなか話ができなくなる。どうしてわか、てくれないのかなと思、うと、頭にきてながよ、くできない。

3

4

どうして二人はながよ、くな、たのかな。と、お母さんに聞、かれて、何回も読、み返、した。とてもむずかしいし、つ問、だと思、った。でも、たしかにかえでの心はかわ、った。はじめは、こうへいが金曜日、にわりこんできて、かえでのわりたか、たおし、やれな放送をじ、やまするサイアクな子だと思、った。けれど、こうへいが別、れてくら、ししている調理員のお母、さんに放送を聞、いてほ、しくて金曜日、をえらんだこと。毎、週、毎、週お母、さんに向、か、て一生けんめい

放送していたこと。お母さんや弟と別れてく  
らして、さびしい気もちでいること。さくら  
が丘ゆうえんに行った日、たくさんこうへい  
のことを知ることもできた。  
そうか。キョウになかよくな。たんじやな  
くて、少しずつこうへいのことを知ってなか  
よくなれたんだね。  
私がこの本を読んで学んだことは、相手の  
話を聞いたり、気もちを考えたりと、さ  
いしよはサイアクだと思っても、なかよ  
くなることのできるということだ。私も思い通  
りにならないと、「サイアク」と言っ  
てしま  
うことがある。おこると気分もわるくなるし  
え顔にもならない。  
私は、え顔で元気いっぱいの放送がしたい。  
そのため、今、なかよしの友だちといっし  
よならサイコウだけれど、さいしよサイアク  
と思う子とも、話をしてなかよくなっ  
ていき  
たい。そして、サイコウの放送委員になっ  
て  
みんなに聞いてもらいたいな。